

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第 卷十第

行發日一月六年九正大

## 論 說

財産税の利弊……………法學博士 神戸 正雄

鎌倉時代の家族制度(五)……………文學博士 三浦 周行

Jan de Witt に就きて(二・完)……………法學博士 財部 静治

襲自珍の農宗說……………文學士 小島 祐馬

明治の米價調節(七、完)……………法學士 本庄榮治郎

人格主義の立場に於ける經濟と人生の考察(一)……………法學士 石川 興二

## 時事問題

目下の恐慌及び失業……………法學博士 戸田 海市

恐慌の對策と銀行業者……………法學士 大森 研造

## 雜 錄

北米合衆國に於ける農耕地……………法學博士 高岡 熊雄

汐見法學士に答ふ……………農學博士 武藤 山治

經濟生活の道德化……………法學博士 神戸 正雄

古代に於ける植民史訓……………法學博士 山本美越乃

附錄……………本誌第十卷總目錄……………

## 經濟生活の道德化

神戸 正雄

(一) 歐羅巴が此度の大戰争に依つて經濟的發展を妨げられたことは少くない。彼は當分經濟上の回復の爲めに非常に苦しまなければならぬ。之に反し日本は同一の原因によりて經濟上の地

位を高め、何程か將來の發展に便利となつた。併し其が歐羅巴人の爲めに不幸を増し、日本人の爲めに幸福を加えたかといふと、必ずしも直ちに然りともいへない。經濟上苦しむ所の歐羅巴が是より精神的に向上の途に進むかも知れないし、經濟上有利となつた日本に於て實は却つて不幸を加えた嫌がないでもない。

(二) 一體、經濟上の發達、特に近代技術の進歩に基く經濟發達は、交通の區域を廣め、産物、就中工産物を豊富にし、人々に智識を廣くして、其經濟生活を豊かにした。又特に其生活状態を美的に向上せしめた。人々は自己を利し得るだけでは一層勉強するやうにもなつた。併し反面には人々の享樂慾も、羨望僻もが強くなり、自己の利益を計る爲めには殘酷、不徳をも辭せざることとなり、勞働を以て單に生活材料を多からしめんが爲めの手段とのみ心得るに至つた。其結果、人々の間には思むべき争鬭が盛んになり、人の心の中には不安と不満とが絶えざるこ

と、なつた。富者も飽くなき享樂に耽り、貧者は足らざるの材料を抱いて憤怒する有様である。資本家が不正又は横暴なる手段により消費者を苦しめて利益を計り又は勞働者を虐使して利益を占むると均しく、勞働者もが罷工により、特に怠業及其他のサボターージュによりて其配當の多からんことを計る。爲めに相手方を傷くるのみならず、局外の人々に迷惑を掛くるも辭する所でない。是れ夫の經濟進歩の齎らしたる結果であつて、歐羅巴に於て既に盛に行はれ、其が此日本にも傳はり來り、そして此大戰爭によりて一層盛んになつた。

(三) 斯くて我邦にては消費者、特に俸給生活者階級は近頃特に困窮して居つた。彼等は過去を想ひ他人を視ては羨望と不満とを感じつゝ、あつた彼等は其經濟上の地位の絶對的にも相對的にも低下したるに對して痛切に不満をいだき、而も之を慰むべき道義上の力を缺いて居つた。然らば農商工業者勞働者は何うかといへば、得るに

従つて益々慾深くなり、慾を充たすが爲めには道義心を麻痺し去つて其に氣付かず、他人を苦しめても之に同情せず、得たる財を濫費して他人に迷惑を與へ不快の感を懷かしめ、且つ自らの肉體をも精神をも頽廢せしめた。其好都合なりし時代には其でも、彼等に満足の思があつたのかも知れないが、聽がて目下の如く又近く來るべきが如く、恐慌不景氣に襲はるゝことゝなれば、産を破り業を失ひて、煩悶し苦勞しなくてはならなくなる。榮華も夢の如くに消えて暗黒の裡に苦しまなければならなくなる。今や資本家は政府の救済を叫び金融家の援助を求めて居り、勞働者は失業の嘆を見やうとして居る。

(四)

斯の如くにして曩きに成金振りを示したる人が困窮するを見るにつけても、何故に彼等が夫の時に於て今日あるを豫想せずして、節約用意を怠つたかを怪しまなければならぬ。何故に當時一部の者の困難を冷かに見て、思惑にのみ耽りたるかを怪しまなければならぬ。當時彼等

が遠慮して過大の投機を爲さなかつたならば、今日の逆轉を見ずとも濟んだであらう。當時用意を怠らなかつたならば、能く今日の困難にも堪えることが出来たであらう。其をしなかつたが爲めに彼等が今日困まるのは多くは自業自得である。特に勞働者の如き當時勞賃は非常に高くなつて居つた。其を彼等は多くは一時の快を貪る爲めに浪費してしまつた。多少は蓄積もしたが、多くは浪費した。其は持つて居ると他人から無心をいはるゝから損だといふ利己的の考から、むしろ自己の目前の享樂に使つた。若も彼等が之を大部分貯蓄したならば、今何うであつたであらう。特に之を勞働組合の資として提供し積立て、居たらば何うであつたらう。彼等は勞働者組合を作つて、其共同の利益を進めることゝしたが、其會費は大抵平等にて極少額つつか出して居らない。其さへも滞納するもあつて、斯くて何の勞働組合にもさう大した準備金は出来て居らぬ。同盟罷工するといふても其間の軍資金を缺き、今日失業救済に充つるとい

ふても其資を缺いて居る。こんなことで何うして其利益が十分に保護し得やう。既に好景氣の時に於ける同盟罷工にてさへ持耐えられなかつた程であつた。今や失業時に當り何うして能く永きに堪へられやうや。唯さへ資本家が勞働者を解雇しやうといふときに此有様では、勞働條件は大に低下せしめらるゝ恐がある。之を夫の好景氣時に勞働者が眞に彼等自らの共同の利益を思ひ、其収入の大小に應じて、恰も所得税など、同様に累進的に重い出金をも爲して、例之月收二三百圓もある勞働者が五十圓百圓位も奮發することにして居つたならば、夫の戦時中より引續きての好景氣中に、組合の資金は相當に大なるものとなつて居たであらうに、資本家の暴利を難する彼等も均しく、夫の高き賃金を以て専ら自己の享樂に向けて、公共に提供せず（特に所得税などを正當に出して居らない）、又彼等仲間の共同利益を計るべき組合にも大して出さない。そして唯だ怠業や同盟罷工で自分達の利益を計るに吸々として居た。好景氣の時には其

でも良からうが、一朝不景氣になつては其では利かない。彼等は自分達の利益を何うしたら永遠に亘つて伸張し得るかさへ良くは知らない。まして社會全體の爲めに誠實に貢献するの氣分などない。そんな事で何うして勞働者の天下が出来やうか。又何うして彼等が社會の中堅となり得るであらうか。彼等の如き心持で何うして社會主義が甘く行はるるであらうか。假りに彼等の天下となつたとしても、恐らく人々は大きな不幸を受けなければならぬであらう。

##### (五)

要するに折角技術の進歩が齎したるを以て日本の爲めには戦争の齎したる今の經濟界の發達をして眞に人々の幸福増進とならしむるのには、人々に道義的公共的精神が發達しなければならぬ。此が前者と並行しなければならぬ智あつて徳なき者は世の中の厄介者である。人が自己の爲めに努力し活動すること固より妨げない。併し常に公共の利益を考え、之を妨げず又むしろ之をも進めることを考えなければな

らぬ。例之、各人の得たる所得の如き少くとも半ばは、其が其人の生活最小資料に關せざる以上、之を凡べて公共に貢獻するだけの覺悟を以て進まなければならぬ。此の如くに人々が利己を制限する標準を守ることにより、初めて世の中は幸福多き世の中となるであらう。假令完全ではないにせよ餘程愉快な世界となり、技術の進歩、材料の豊富も恐らくは多數人の幸福の資料となるであらう。私は經濟生活を道義化することを望んで已まない。